

桑野塾

桑野塾 検索
http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。
どなたでもご参加いただけます。
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

第50回

2018年
7月14日(土)
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 戸山キャンパス 33号館 434号室

★どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。 **参加無料**
☆終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)
※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。
※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



シャガール! クレズマー! チンドン!

シャガールの聴いた音 —— クレズマーとイディッシュ演劇

報告者: 武隈 喜一



マルク・シャガール《緑の地の楽師》1963年 リトグラフ

シャガールが描いた楽師たちが奏でた音と、
シャガールがパリに出る前に熱中したイディッシュ演劇について
現在のニューヨークのユダヤ人文化とのかかわりの中で語ろうと思います。

●武隈 喜一(たけくま 喜一)
1957年東京生まれ。上智大学外国語学部ロシア語学科、東京大学文学部露文科卒業。
出版社、通信社等を経て、1994年から1999年テレビ朝日モスクワ支局長。2016年7月からニューヨーク勤務。
編訳『ロシア・アヴァンギャルドII 演劇の十月』(国書刊行会、1988年)、
『ロシア・アヴァンギャルドI 未来派の実験』(同、1989年、共に共編)、
著書『黒いロシア 白いロシア—アヴァンギャルドの記憶』(水声社、2015年)など。
ニューヨークの文化と政治と生活を「あてらな通信 ニューヨーク篇」、「メディアの現在」としてメール配信を続ける。
email: kiitake@hotmail.com

チンドン・クレズマー 交流見聞録

報告者: 大熊 ワタル・こぐれ みわぞう

30年ほど前、チンドンとクレズマーにほぼ同時に出会い、両者のシンクロニシティに惹かれてチンドン×クレズマーに取り組んで来ました。長らく欧米クレズマー・シーンとは離れた島国で想像のまま演奏して来ましたが、この数年、縁が重なって欧米シーンとの交流が進み、嬉しい出会いと発見の連続です。

クレズマー再発見の歴史を振り返りつつ、欧米シーンとの交流の見聞を報告します。

●大熊 ワタル(おおくま わたる)
クラリネット、バスクラリネット、サクソ、ボイス、他
1960年広島県生まれ。25歳頃、チンドン屋の世界に触れ、街頭でクラリネット修行をはじめ。1997年、添田唾蟬坊の墓碑銘にちなみ自身のバンドをシカラムータ CICALA-MVTAと命名。シカラムータと平行して、さまざまなバンド、セッションでも身体性、即興性に富んだアプローチで知られ、国内外でのツアーのほか、映画・演劇の音楽も手がける。
チンドンのほか、クレズマー、バルカン、ロマ音楽にも造詣が深く、2015年にはNYの歴史的クレズマーフェスティバルに、ジングラムータで招聘、絶賛された。
著作『ラフミュージック宣言 チンドン・パンク・ジャズ』(2000 インパクト出版会)など。
2017年、月刊みすず誌でチンドン・クレズマー海外公演レポートを連載。

●こぐれ みわぞう
マネジャー、チンドン太鼓、ゴロス、ヴォーカリスト、箏奏者
6月10日千葉県千葉市生。
幼少時より箏曲山田流を始め、11歳で師範名取襲名。1997年ソウル・フラワー・モノノケ・サミットに参加し、チンドン太鼓を始め、シカラムータ・ジングラムータを中心に、ジャンルを問わず、ダイナミックかつダンサブルな演奏スタイルで、新世代チンドンの第一人者として活躍。串田和美氏の舞台などにも出演、唯一無二なチンドン奏者として、国内外で希有な存在感を放つ。
2015年16年、ジングラムータでの海外(北米・ドイツ)公演が絶賛され、日本人としては稀有なイディッシュ語での歌唱も高評を得る。

シカラムータ <http://www.cicala-mvta.com/>